

八女中・八女高同窓会関東支部便り 号外版

<第90回総会・懇親会記念>

【八女中・八女高同窓会関東支部の総会・懇親会、第90回を記念し、同窓会の運営や発展に多大なる貢献頂いた大先輩方お二人に、同窓会の思い出等を寄稿頂きました。】

*重富 吉之助様(高校4回卒)

主な経歴：昭和8年(1933)現筑後市高江に生まれる。昭和31年(1956)九州大学経済学部卒業、同年福岡県入庁。昭和35年(1960)行政管理庁入庁後、行政管理庁大臣秘書官(1971)、内閣審議官(1976、国鉄電々等担当)、臨時行政改革推進審議会事務局総務課長(1981)、第一次行革審議総括参事官(1983)、大臣官房審議官などの要職を経て、平成3年(1991)参議院議員当選。平成8年(1996)からNTTドコモの顧問も務められた。

同窓会歴は、三代前の支部長(当時は会長)を務められ、同窓会の発展に尽力して頂きました。(詳細は本文参照)

『八女中・八女高同窓会雑感』

今年は令和元年、同窓会関東支部も節目の年を迎え、支部長はじめ幹事の皆さんも苦勞が多かった事と思います。

私は、六十余年前の昭和三十五年初めて上京してから、地方勤務などの間を除き、ほぼ毎年八女中・八女高在京同窓会に出席してきました。特に最初の頃は、荒木万寿夫文部大臣(中7回)の藤島康喜秘書(中32回)の依頼で、八女中同期の山崎琢磨君(安田火災)と共に、同窓会総会の下働きをしてきました。その頃の会場は、大手町の荒木先生に縁の深かった「花山会館」が多かったように思います。

歳月は昭和から平成に流れ、開催場所は五反田の簡保会館「メルパルク」に移り、開催日は六月中旬の梅雨期で雨の日が多く、同窓会の出席者は五十～六十名位に激減していました。

この状況を心配された諸先輩から、会長(当時)にと強い要請があり、断り切れずに先輩方の全面的なご協力を頂くことを条件に引き受けました。

その際、①開催日を六月中旬以降の梅雨期を除く事、②開催場所を変更する事、③家庭を持つ女性も参加し易いように開催時間を夜から昼に変更する事の三点を了解してもらった。また、田中親房氏(中36回)、高椋喜久十氏(高1回)から提案の、「母校の総会が学年幹事制で、活発に活動しているのを参考に、我々在京同窓会を属人的なものから学年幹事制に変更すべきではないか」を採択し、八女中学創立100周年記念行事と併せて母校の同窓会との連携を強化することにした。

その結果、従来から懸案になっていた同窓会の名称を「在京八女中・高同窓会」から「八女中・高同窓会関東支部」に変更する事にした。これらの改革によって、女性の方々の参加が大幅に増えただけでなく、同窓会の参加者も画期的に増加した。現在の参加者は、内田(高8回)、福本(高12回)、塚本(高19回)各支部長等のご尽力により、現在の総会出席者は、300名を超えていると聞き、心から喜んでいところだ。

総会の他に、内田氏等の提案により、ゴルフのイベントも行うなど、同窓生の親睦も深まっている。

尚、高1回の高椋喜久十氏は、母校の同窓会総会や関東支部総会に毎年必ず出席され、会の発展に何かとご尽力してこられました。本年四月四日死去されました。同窓会を代表して、副代表幹事の吉武町子氏(高24回)が、お葬式に参列されました。心から哀悼の意を表します。(裏面に続く)

発行日：令和元年6月15日

発行：八女中・八女高同窓会関東支部 支部長／塚本 享

編集：広報担当／吉武 町子・牛島 暁美

八女中・八女高同窓会関東支部便り 号外版

<第90回総会・懇親会記念>

*内田 和宏様(高校8回卒)

主な経歴：昭和12年(1937)現八女市八幡村に生まれる。昭和35年(1960)慶應義塾大学卒業後、同年日本鋼管入社。昭和60年(1985)東亜建設工業入社、平成19年(2007)同社退社。同窓会歴として、平成21年(2009)代表幹事、平成22年(2010)関東支部に名称変更、初代支部長就任～平成25年(2013)支部長福本氏へ引き継ぎ。

『創立90周年総会に寄せて』

令和元年、創立90周年記念総会おめでとございます。その一時期、この同窓会の運営に携わりお世話をさせて頂いた会員として、同慶の至りでございます。毎年6月の定例総会が近まりますと、我々の先輩としてこの会の運営と発展に寄与されてこられた方々を、懐かしく思い出しているところでございます。

私は平成20年代の前半、代表幹事1年・初代支部長として4年、この会の運営に携わってまいりました。平成22年度、関東支部の発足に際し、従前の歴史は尊重しつつも現在・将来に繋がる運営方策として、幾つかの新方策を運営役員と共に策定・実施致しました。その施策各々には各々の背景・内容がありましたが、その全てを書き記すには、紙面の余裕がありませんので、箇条書き的に項目だけの列挙にさせていただきます。

1) 関東支部への改称 2) 通算開催回数の認定・承認 3) 当番幹事制の継続導入 4) 支部組織の整備・強化＝組織・会議体の明確化 5) 総会・懇親会開催要領の整備 6) 常任運営役員の強化(役職・年層別配置担当・女性登用・定年制) 7) 学年幹事制の整備・強化(登録・不登録不活動学年の掘り起こし・女性会員の参加促進・学年幹事会＝昼食会定例開催。活動事例情報交換 8) 連絡ネットワーク・ホームページ構築(支部内・学年内) 9) 紹介リスト 10) 東京研修支援 11) 東ゆうかり会ゴルフコンペ 12) 東日本大震災お見舞い 13) 筑後市民ミュージカル東京公演後援・・・等々。

その効果はその各々が有機的に絡み合い機能して初めて期待できるものであると思われまふ。そして、これを成すのは、すべて「人の力」であると思われまふ。関東支部発足時から常に共に支部運営に携わって頂いた常任運営役員の皆さん(12＝福本、16＝深町・田中、19＝塚本、24＝吉武の各氏)、支部繁栄の核は同期会の力というこの会の趣旨をご理解頂き同期を纏めて頂いた学年幹事の皆さん、そして当番幹事として実質2年間その任に当たって頂いたその年次毎の皆さんには、立派に十二分に「人の力」を発揮・提供して頂きました。そして、会員の皆さんも良くご協力頂きました。その全ての結果が、総会参加者300名超えにあらわれていると、嬉しく思ひます。

先にも項目として挙げましたが、支部発足当初より、支部内連絡・通信・広報のネットワークの構築、その後のメンテ全てにご尽力頂いている、江崎 浩君(東大教授、高33回生)には、そのネットワークをもとに支部内広報を担当頂いている吉武 町子さん(高24回生)に対すると共に、退任後の今も感謝いたしております。

私の後、12回生の福本 博君が2代目支部長として、独自のキャラクターで立派に繁栄の道筋を付けてくれましたし、この90周年は、19回生の塚本 享君支部長のもと取り仕切られております。盛会を祈念しております。

年寄りが分別くさいことを言って恐縮ですが、組織の現状維持は組織の退歩とも言われまふ。どうぞ皆さんの柔らかい頭でイノベーションして、この会が末永く発展し継続するようご尽力下さい。駄文失礼致しました。

発行日：令和元年6月15日

発行：八女中・八女高同窓会関東支部 支部長／塚本 享

編集：広報担当／吉武 町子・牛島 曉美